

事後評価結果（令和2年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：遠藤 達哉

事業名 一般国道230号 小金湯拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省	延長 4.3 km
起終点 自：北海道札幌市南区豊滝 至：北海道札幌市南区定山溪温泉1丁目			

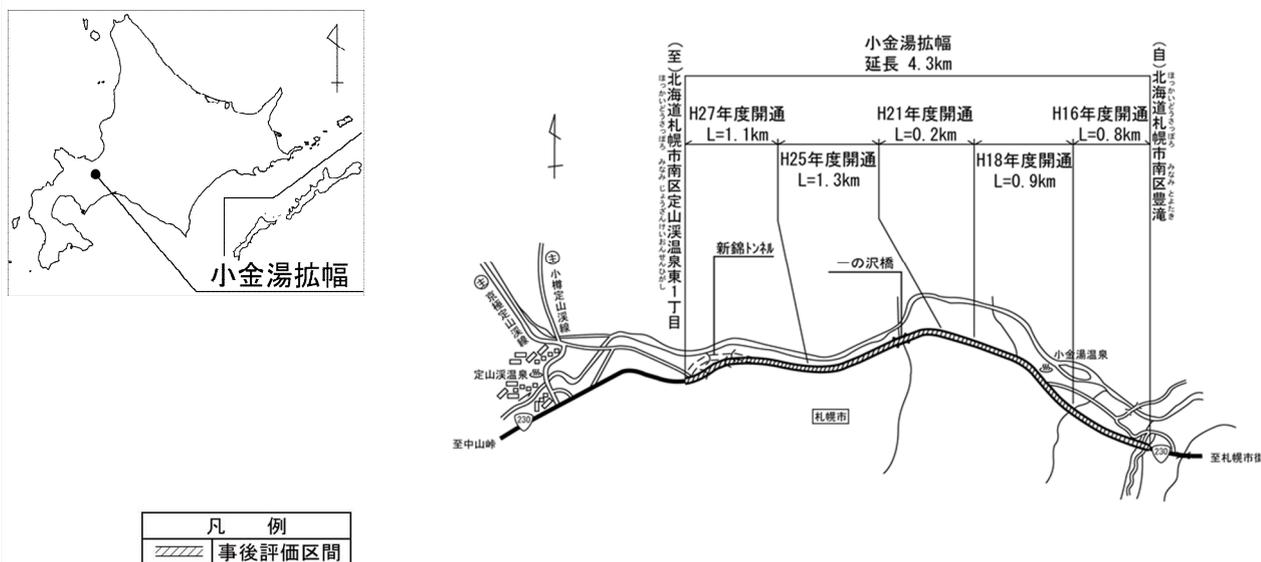
事業概要

国道230号は、札幌市を起点とし、せたな町に至る延長約149kmの幹線道路である。
 小金湯拡幅は、札幌から道南方面への通過交通、道内屈指の観光地である定山溪及び洞爺湖への交通による交通混雑の緩和や交通事故の低減を目的とした延長4.3kmの4車拡幅事業である。

事業の目的・必要性

小金湯拡幅は、札幌から道南方面への通過交通、道内屈指の観光地である定山溪及び洞爺湖への交通による交通混雑の緩和や交通事故の低減を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H6年度	用地着手	H10年度	供用年	(当初) - / H20年度	変	1.6倍
		都市計画決定	一年度	工事着手	H10年度	(暫定/完成)	(実績) - / H28年度	動	
	事業費	計画時	(名目値)	- / 85億円	実績	(名目値)	- / 120億円	変	1.4倍
		(暫定/完成)	(実質値)	- / 78億円	(暫定/完成)	(実質値)	- / 116億円	動	
	交通量 (当該路線)	計画時	(H11年)		実績	(R1年)		変	100%
		(暫定/完成)	- / 18,283台/日		(暫定/完成)	- / 18,323台/日		動	
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	37.7 → 47.1 km/h		交通事故減少		50.0 → 11.6件/億台km				
	(供用前年次) H11年 (供用後年次) R1年		(供用前現道→当該路線)		(供用前年次) H13~15年平均値 (供用後年次) H28~30年平均値				
費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	総費用	67億円		総便益	379億円		基準年	平成15年
	5.7	(事業費：67億円 維持管理費：0億円)			(走行時間短縮便益：372億円 走行経費減少便益：4億円 交通事故減少便益：3億円)				
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	総費用	213億円		総便益	329億円		基準年	令和2年
	1.5	(事業費：190億円 維持管理費：23億円)			(走行時間短縮便益：316億円 走行経費減少便益：10億円 交通事故減少便益：1.7億円)				
事業遅延によるコスト増		費用増加額	75.8億円		便益減少額	231.0億円			

	<p>事業遅延の理由 用地手続きや土工の掘削工法の見直し等による事業期間延伸</p> <p>客観的評価指標に対応する事後評価項目 事業の整備効果</p> <p>① 交通混雑の緩和 ・ H22に観測した旅行速度12.0km/hに対してH28の拡幅後は21.7km/hに向上し、主要渋滞箇所が解消</p> <p>② 主要な観光地への利便性向上 ・ 札幌中心部から定山溪温泉への所要時間が約10分短縮され、紅葉シーズンに定山溪地区内を周遊するバスの総遅延時間が約8割減少するなど効率的な周遊観光にも寄与</p> <p>③ 道路交通の安全性向上 ・ 事故類型で多く発生していた追突事故が24件から6件と約8割減少し、整備前に12件確認されていた重大事故につながりやすい正面衝突が発生しなくなるなど安全性が向上</p> <p>④ 救急搬送の安定性向上 ・ 定山溪地区から市内二次救急医療機関への搬送時間が約7分短縮され、喜茂別町から札幌市の三次救急医療機関への搬送時間が約25分短縮されるなど、救急搬送の安定性が向上</p> <p>⑤ 日常生活の利便性向上 ・ 路線バスがほぼ定刻で通過が可能となり、札幌駅と定山溪地区間の所要時間も整備前から約12分短縮されるなど、日常生活の利便性が向上</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 環境影響評価の対象外事業である。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
	<p>事業評価監視委員会の意見 当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。</p> <p>事業を巡る社会情勢等の変化 ●人口・産業等の社会経済情勢の変化（対象地域：札幌市） ・ 人口は、事業化当時約1,733千人(H7)→開通後約1,959千人(R2)となっている。（住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査） ・ 観光入込客数は、事業化当時約1,002万人(H6)→開通後約1,388万人(H28)となっている。（北海道観光入込客数調査）</p> <p>今後の事後評価及び改善措置の必要性 小金湯拡幅の整備により、交通混雑の緩和や交通事故の低減など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。</p> <p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 現道の交通・渋滞状況の調査分析や地域計画を鑑み、事業計画の修正を行った上で事業を進めることができたことから、今後の事業の実施においても、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めていくことが重要である。 また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。</p> <p>特記事項 特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。